

ほちほちにか

2021年6月 日
桜井谷小学校
6年図工通信 第3号
発行者：



100 years later...



今回は、自画像をステンシル版画で表現しました。

まずはタブレットのカメラで自分の顔を撮影し（マスクを長時間外すことへの対策…早くマスクをつけなくても安心できる生活が戻ってほしいですね…）鉛筆で下描きをします。ステンシル版画は、アートナイフでくりぬいていった後にくりぬいた所に色をのせていく版画なので、各パーツどうしをなんとかして線で繋げて描かなければパーツがごっそりなくなってしまいます。その為に、子どもたちのピチピチの肌には存在しないほうれい線や目や口元のしわを無理矢理つくり描きます。下描きで合格がもらえたらペン描き。太いペンでなぞっておくことで、カッターナイフでくりぬきやすくします。

ペン描きを終えた自画像は、本人そっくりのものが沢山！絵を見ただけで誰か分かる程、よく特徴を捉えて描いていました。実際には無い繋ぎの線を描いているので実物よりも少し老いてみえるのは、どこか本人の雰囲気を持ち合わせた自画像が完成したのは、子どもたちの観察力の賜物です。

くりぬき作業は、カッターナイフではなくアートナイフを使います。持ち方と動かす角度のコツをすぐに掴み、細かさや鋭さを意識しながら丁寧にくりぬいていくことができていました。

くりぬいた顔と黒画用紙を重ねて、いざファンデーションタイム。タンポ（たんぽぼやら湯たんぽやら言って楽しんでいました）を使って素早くたたきつけ、満遍なく白色にしていきます。全面に白色の化粧ができれば、続けて好きな色で再びファンデーション。紙の上で混色するイメージで思いのままに叩いて色をつけていきます。混ぜすぎると、あまり美しい色にはならないのでどの色を組み合わせるかも重要です。青色と黄色の組み合わせが人気でした。意図的でなくても、新たな色が生まれる楽しさを感じてくれている子が多くて嬉しかったです。タンポの動かし方と絵の具の量で苦戦している子もいましたが、なんとか「自分の顔」を仕上げることができました。題して「100年後のわたし」。モダンな顔が廊下に並びます。

